

No. 161

平成26年8月発行



北 塩 原 村 KITASHIOBARA

☎(0241)23-3263 〒966-0485 北塩原村大字北山字姥ヶ作3151
HPアドレス <http://www.vill.kitashiobara.fukushima.jp/gikai/>

発行/北塩原村議会 編集/議会広報調査特別委員会(TEL 0241-23-3263)

目次

6月定例会報告……………	2
一般質問……………	3～5
審議結果一覧……………	6
お知らせ……………	6

議会だより

6月議会

第一中学校3年生が 議会傍聴しました



平成26年第3回村議会定例会（6月定例会）1日目の様子。
第一中学校3年生20名が議会を傍聴しました。

6月定例会あらまし

6月定例会が6月10日から12日までの3日間の会期で開催され、第1日目に、「平成25年度喜多方地方土地開発公社事業報告及び決算書について」と「平成25年度北塩原村一般会計繰越明許費繰越計算書について」の報告を受け、その後、一般質問を行い、3名の議員が村の施設管理の姿勢などを取り上げ、村政をたどしました。

第2日目は、条例案2件、一般会計補正予算案1件について説明を受け、常任委員会を開催しました。

第3日目には、前日に引き続き常任委員会を開催し、その後、各議案についての質疑、討論、採決を行い、3議案について原案のとおり可決し、意見書2件について原案のとおり可決し閉会しました。

なお、今期定例会の傍聴者は31人でした。

【6月定例会提出議案の概要】

議案第41号

北塩原村税条例等の一部を改正する条例

地方税法等の一部改正により、村県民税における法人税割の標準税率を引き下げるもの。

議案第42号

北塩原村社会教育委員設置条例の一部を改正する条例

社会教育法の一部改正に伴い、条例に委嘱の基準を定めるもの。

議案第43号

平成26年度北塩原村一般会計補正予算（第1号）

社会保障・税番号システム整備事業費、コミュニティ助成補助金、村制60周年記念式典記念品、林道高曽根線復旧工事費、デイサービスセンターエアコン設置事業費、農産物加工設備費、山のみち地域づくり交付金事業、観光誘客用法被制作事業費、磐梯山火山対策警報装置緊急修繕費、などの増額による、総額2,358万7千円の増額。

議案第43号

平成26年度

北塩原村一般会計

補正予算（第1号）

反対討論

小椋 元 議員

この予算案において、観光誘客用法被制作事業費は費用対効果が伴っていないものと思われる。

また、道の駅裏磐梯における冷蔵庫修繕の費用については、十分な利益を上げている企業にもかかわらず、村が修繕するのはおかしいものと考え、るのでこの原案について反対する。

賛成討論

遠藤 祐一 議員

本予算案は、北塩原村の活性化につながる内容であると認められるので原案について賛成する。

一般質問 1

2番 蟹巻尚武



1 北塩原村デイサービスセンター及び在宅介護支援センター内の施設環境について

【問】平成22年度以降、夏の猛暑が続く中、当村も例外ではありませんでした。村内の高齢者の皆様が利用している施設として、適正に施設管理及び環境づくりをされていたのか。

この施設が室内の温度の計測を始めてから、これまでに3回、平成23年2月、平成23年12月、平成24年12月に、施設の劣悪な状況を改善して

ほしいとの要望書を、小椋敏一村長宛に、社会福祉協議会の会長名で要望書を上げています。その要望書の中には、「特に高齢者にとって暑さは堪えるもので、衰弱する方も多く見られ、中には夏場は利用しにくいなどという声も聞かれます。このままでは利用者の確保にも支障をきたす恐れがあります」と書いてある。

この要望書が上がったときに、どのような形で村は対応を取ったのか。そして、要望が繰り返し出されていたにも関わらず、ようやく今になっての対応というのは行政として怠慢なのではないか。

隣接している保健センターにも冷房設備は設置されていないが、そこにも冷房設備を設置する考えはないのか。

答

村デイサービスセンターは、高齢者などの村民の福祉の向上を図るため、村が設置した施設である。現在は指定管理者制度により、社会福祉

法人北塩原村社会福祉協議会を指定し、適正に管理運営を行っている。また、運営にあたっては、施設内の環境づくりについて必要に応じて村が取り組んでいる。

村デイサービスセンターは、約790メートルを超える高地であり、冷房を入れるよりも外の空気というのを入

れたほうが利用者の方々の体のためにもなるのではという考えでいたが、最近の猛暑という状況から、対策として、平成24年度に、冷風機を導入した平成24年、25年と冷風機による対策を実施したが、想定した効果が得られていなかったため、今議会（6月定例会）に提案している予算案にて、デイサービスセンター

へ冷房設備を入れる予算を組ませていただいている。

保健センターには導入する方向で検討をするが、優先順位があるので、まずはデイサービスセンターに冷房を入れ、その効果の確認をしなければならぬと考えている。



△村デイサービスセンター



△村保健センター

一般質問 2

5番 小 椋 元

1 県道会津若松裏磐梯線及び
松原湖一周道について

【問】

①650メートルの松原トンネルが開通になり、大変近くなったような感じがしているが、今後、冬に向かって残っている松原までのきついカーブ、狭いところについては、どれだけの改良がなされる予定なのか。

②松原金山間の拡幅工事の予定は。

③一周道路の歩道についての計画は。

④冬期間の松原大塩間の村道についての考えは。

答

①松原までの狭隘^{きょうあい}で急カーブな区間の改良計画については、松原2工区は松原トンネル北側の暗渠工等、残工事施工中であり、今年度、工区完了予定である。松原3工区については、測量、地質調査、設計及び国有林への買受申請予定で、区間にある狭隘箇所の改良が今年度になるため、冬期間の

交通に支障ないよう検討したい旨、道路管理者である喜多方建設事務所から聞いている。松原集落の近くで行っている工事は、今年度工区完了予定と聞いている。

②松原金山間の拡幅工事については、今年は現在認可されている事業区間に加え、それより会津若松側の未改良区間も含めた道路計画を検討する予定とのことである。

③歩道の計画については、トンネル等の特殊構造物以外は歩道を湖水側に設置する予定で、またトンネル区間内の歩道については、歩道的空間のあり方、位置付けを検討中とのことである。

④冬期間の松原大塩間の村道については、県道改良工事の進捗状況をみながら実施する方向で検討している。



▶今年4月に開通した松原トンネル



2 震災から3年以上経過しましたが、今後の誘客事業について

【問】郡山からの直通バス、あるいはスキー場経由の会津若松行きのバス、これらの復活は考えているのか。

また、ほかに別の誘客の方法、事業を考えているのか。

答

平成21年度には裏磐梯高原と郡山間の直通バス、平成22年度においては、郡山駅から裏磐梯高原経路、会津若松駅までの定期路線バスを試験的に運行した経過がある。

現在、村の2次交通対策については、昨年度から民間交通事業者が、福島駅から裏磐梯高原経由、喜多方駅までの観光路線バスを運行している。また、村内ホテル等が協議会をつくり、民間交通事業者に委託し、郡山駅から裏磐梯高原までの定期バスを運行している。

このため、村の2次交通対策事業としては民間事業者のバス運行が、村の誘客事業を担っている状況であり、現時点で村の事業として2次交通対策を計画することは考えていない。

震災後、村では平成23年度から、合宿利用者支援事業、県内の家族向けに体験活動応援助成事業を実施してきた。さらに観光基盤整備のため、裏磐梯観光施設再生整備事業計画を策定し、平成25年度より年次計画に沿い、事業に着手してきたところである。

しかし、観光宿泊客は、いまだ震災前の水準にいたっておらず、この状況を打破するために、観光宿泊者拡大促進プロジェクト事業に着手し、宿泊客5万人泊増加を目指して事業を推進している。村では風評被害を払拭し、村の安全性を発信し続けるために、裏磐梯観光協会をはじめ、村内の宿泊施設、旅行エージェンツ及び村民が一体となつて、この事業を進めていく考えている。

一般質問 3

1 番 若林 幸子



1 「ふるさと納税」について

【問】ふるさと納税で北塩原村を応援して下さっている方はどのくらいいるのか。

答

平成21年2月1日に、北塩原村ふるさとづくり寄付金要綱を施行し、寄付金の受け入れを行ってきた。村をこれまでに応援してくださった方は個人で7名、企業団体で3団体、合計10件である。今後とも、周知と広報に努めていく。

2 「AED」について

【問】村としてAEDの重要性をどのように認識しているのか。

村にはいくつかのAEDがあり、どこに設置されているのか。

また各部落に1つずつAEDを設置する考えはないか。学校等でAEDを使用する際に、父兄の方たちが使用できるように講習会を行う考えはないか。

答

AEDは有事の際の救命措置のための医療機器である。医療従事者のみならず一般の方でも操作可能であることから大変有効な機器であると考えている。

設置については、役場本庁や小中学校など村の施設10か所、村の施設外では、現在把握している施設でホテルなどの観光施設など16か所に設置されている。

AEDの設置については、

まずは村の公共施設への設置について考えていきたい。

講習会については有効であると思うので、各種団体等と協力し、計画できるものはいきたいと考えている。

3 子どもたちの学力向上、ICT教材について

【問】子どもたちの学力向上のためにどの様に指導しているのか。

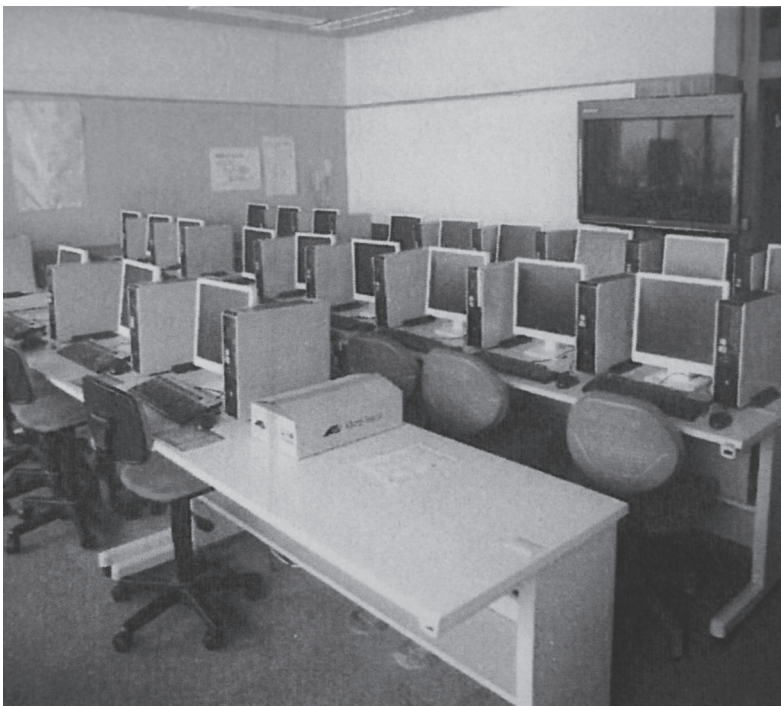
るのか。

ICT教材を取扱い、授業しているのか。

ICT教育の充実のためには先生方がまずしっかりと教材を使うことが必要なので、先生方への指導や研修を行うのか。

答

教育委員会では、学校教育指導員会を推進の核とし、児



△ ICT教材の効果的に利用し教育の充実を図るべき。

童生徒の共通課題を共有しながら取り組んでいる。まず教員の資質及び指導力向上のために、学校教育指導員による視察研修や、村内全教員を対象とした教育講演会、村指定授業研究会を開催している。また、児童生徒の学習意欲を促すために、各種検定受験料の助成や総合的な学力向上のために、学校支援ボランティアによる体験学習の充実を図っている。

ICT教材を活用した事業については、パソコンや電子黒板、デジタルコンテンツ等を活用し、写真や図表等を大きく提示したり、動画を見せることで、児童生徒の注目度を高め理解を深めさせるなど、学力向上の一環として活用している。

教育委員会としても、いろいろな形で村の教職員の資質向上に全力をあげて取り組んでいくことを大事にしていきたいと考えている。そのためにも必要な研修も、いろいろな角度から実施していきたいと考えている。

◎審 議 結 果 一 覧

■ 6 月定例会

○：賛成 ×：反対

議長は採決には加わらない

議案番号	若林 幸子	蟹巻 尚武	五十嵐 力雄	大竹 良幸	小椋 元	相原 和之	五十嵐 正典	五十嵐 善清	遠藤 春雄	小椋 義正	遠藤 祐一	小椋 眞	議決結果 (賛成：反対)
議案第41号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決（11：0）
議案第42号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決（11：0）
議案第43号	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	—	可決（10：1）
意見書第1号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決（11：0）
意見書第2号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決（11：0）

議案第41号 北塩原村税条例等の一部を改正する条例

議案第42号 北塩原村社会教育委員設置条例の一部を改正する条例

議案第43号 平成26年度北塩原村一般会計補正予算（第1号）

意見書第1号 要支援者を介護予防給付から外すことに反対する意見書

意見書第2号 「手話言語法」制定を求める意見書

■ 6 月臨時会

○：賛成 ×：反対

議長は採決には加わらない

議案番号	若林 幸子	蟹巻 尚武	五十嵐 力雄	大竹 良幸	小椋 元	相原 和之	五十嵐 正典	五十嵐 善清	遠藤 春雄	小椋 義正	遠藤 祐一	小椋 眞	議決結果 (賛成：反対)
議案第44号	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	—	可決（10：1）
議案第45号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決（11：0）
議案第46号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決（11：0）
推薦第1号	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	—	可決（10：0）

議案第44号 北塩原村国民健康保険税条例の一部を改正する条例

【内容】国民健康保険税の課税限度額の引き上げ、国民健康保険税を軽減する所得判定基準の算定方法の改正

議案第45号 平成26年度北塩原村一般会計補正予算（第2号）

【内容】国民健康保険者の負担軽減のための財政支援として、国民健康保険事業費特別会計への繰出金1,000万円の増額

議案第46号 平成26年度北塩原村国民健康保険事業費特別会計補正予算（第1号）

【内容】国民健康保険税本算定に伴う、保険給付費等4,368万3千円の増額

推薦第1号 北塩原村農業委員会委員の推薦について（五十嵐 正典氏）

陳情・請願

◎採択となったもの

○要支援者を介護予防給付から外すことに反対の陳情

〈陳情者〉

会津若松市東千石1-2-13

医療と福祉を良くする会津の会

会長 木村 宏明

○「手話言語法制定を求める意見書」の提出を求める請願書

〈請願者〉

福島市渡利字七宮1-1-1

福島県聴覚障害者協会

会長 吉田 正勝ほか2名

〈紹介議員〉五十嵐善清議員

◎不採択となったもの

○集団的自衛権の行使容認に反対する意見書提出を求める請願

〈請願者〉

会津若松市城東町16-1

会津地方労働組合総連合

議長代行 池田雄次郎

〈紹介議員〉小椋元議員

お知らせ

次回定例会は **9月上旬頃** 開会予定です。

議会傍聴、議会だよりのお問い合わせは議会事務局まで。

TEL：(23) 3263

FAX：(25) 7358

編集委員

委員長 大竹 良幸

副委員長 蟹巻 尚武

委員 五十嵐 善清

委員 若林 幸子

委員 小椋 眞